

平成25年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
蚕糸・地域特産部門

高度な栽培技術による「天竜茶」ブランドの確立と新商品開発の取組

○氏名又は名称 太田 昌孝

○所在地 静岡県浜松市

○出品財産物(茶)

○受賞理由

・地域の概要

浜松市は、静岡県の西部に位置し、年間の平均気温は16℃と温暖で年間の降水量は2,000mm程度で、様々な地形を活かし、お茶やみかん、米、キクなどの栽培が盛んである。平野部は、東海道本線や東名高速道路、国道1号線など、交通網が発達している一方、山間部は人口の減少と高齢化が進んでいる

・受賞者の取組の経過と経営の現況

昭和50年に本格的に茶の栽培を行うようになり、当時の茶園面積はわずか0.3haであったが、徐々に規模拡大を図り、現在は約3haの経営を行っている。

平成4年に仲間と共同で芦窪製茶協同組合を設立し、荒茶工場を整備した。8年には、生産技術の向上とブランド化を目的に、仲間9名で「天竜茶研究会」を立ち上げ、会員相互の栽培技術の高位平準化に努めている。

・受賞者の特色

(1)積極的な改植の推進と手摘みによる収穫

茶は老齢樹になると、一般的に収量が低下すると言われていたことから、太田氏は茶園の若返りを図るため、積極的に改植し、新品種の導入も行っている。併せて、茶園の基盤整備を行うことにより、茶園の機械化体系を確立し、効率的な茶経営を実現している。

お茶の栽培方法にもこだわり、茶園の半分以上は被覆棚を設置し、「自然仕立て」と言われる栽培方法で、手摘みによる高品質なお茶の生産を行っている。

(2)こだわった土づくりによる茶園管理

よいお茶は、よい土づくりからをモットーに、有機物資材の投入、有機質肥料を中心とした環境にやさしい栽培を行っている。特に、茶園周辺の採草地からカヤ等を刈って茶園に敷き詰めることにより、保肥力を高め、冬の寒さや干ばつ防止にもつながっている。

(3)防風ネットの設置による害虫防除

春先の強風による葉傷みを防ぐため、防風ネットを設置している。防風ネットは、強風から茶を守るだけでなく、害虫防除にも効果があり、薬剤散布回数の軽減にもつながっている。

(4)新たなお茶のスタイルを提案

誰でもおいしいお茶が淹れることができるように、地元の窯で焼いた茶器を考案し「しずく茶」と呼ぶ新しいお茶の飲み方を提案している。

また、神奈川県の子会社と共同でワインボトル入り高級茶「MASA」を商品開発し、数量限定で贈答用として販売している。

(5)芦窪製茶協同組合を設立し、荒茶工場を共同利用

コスト低減のために、共同で荒茶工場を設立し、良質なお茶づくりに努めている。組合員が持ち込む1日あたりの生葉の量を限定するとともに、生葉の品質を8区分に分け、2つのラインで処理し、品種や生葉の品質に応じた荒茶加工を行っている。

・普及性と今後の発展方向

太田氏は「天竜茶研究会」の会長を務め、会員の栽培技術の向上を図るなど、産地のリーダー的存在であり、後継者も育っていることから地域としてもさらなる飛躍が期待される。

地域の小中学校でのお茶摘み体験の実施や、地元の高齢者を雇用するなど地域の活性化につながっている。

お茶の飲み方の新しい提案や農商工連携で企業と共同でワインボトル入り的高级茶を開発しており、今後もお茶の需要拡大に向けたさらなる取り組みが期待される。